

平成24年度

全国特別支援学級設置学校長協会 第3回全国理事会・理事研究協議会



世界遺産・熊野那智大社と那智の瀧

期 日 平成25年1月31日〔木〕・2月1日〔金〕

会 場 ホテル アバローム紀の国

主 催 全国特別支援学級設置学校長協会
和歌山県特別支援学級設置校長会

後 援 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会
海南市教育委員会 和歌山県連合小学校長会
和歌山県中学校長会 和歌山県特別支援学校長会

平成 2 4 年度全国特別支援学級設置学校長協会
第 3 回全国理事会・理事研究協議会実施要項

1 目 的

平成 1 9 年 4 月、学校教育法等の一部を改正し、特別支援教育が本格的に実施されて 6 年を迎えている。

各学校においては特別支援教育の推進のため、特別支援学校や関係諸機関との連携をはかりつつ、特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた指導・支援のあり方、交流及び交流学习の推進、校内体制の整備等のさらなる充実に取り組んでいる。また、障害者基本法改正に伴い、障害者を包容する教育制度を確保し、「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」とされており、今後この教育を具体的にどのように進めていくかが課題となっている。

このような中、さらなる特別支援教育の充実・発展に向けての校長の強いリーダーシップは欠かすことのできないものである。そこで、特別支援教育の取組状況等について広く情報交換を行うとともに研究協議を深め、この教育の進展に資する。

2 研究協議の主題

「一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力を育む特別支援教育の推進」

3 主 催 全国特別支援学級設置学校長協会 和歌山県特別支援学級設置校長会

4 後 援 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 海南市教育委員会 和歌山県連合小学校長会 和歌山県中学校長会 和歌山県特別支援学校長会

5 期 日 平成 2 5 年 1 月 3 1 日（木）・2 月 1 日（金）

6 会 場 ホテル アバローム紀の国 〒640－8262 和歌山市湊通丁北 2 丁目 1－2 TEL 073－436－1200 FAX 073－436－8866

7 日 程・内容（予定）

<第 1 日 1 月 3 1 日（木）>

11:00	11:30	12:50	13:00	14:20	14:30	15:50	16:00	17:00	17:10	17:40	18:00	20:00
全国副会 長会受付	全 国 副会長会 (羽衣の間)	全 国 理事会 (鳳凰の間)		研究協議 (鳳凰の間)	指導助言 行政説明 (鳳凰の間)	ブロック会議 (鳳凰の間)		懇親会 (鳳凰の間)				
	全国理事 受 付		研究協議 受 付			顧問・参与の会 (スターチス)						

(1) 全国副会長会		11:30~12:50		
(2) 全国理事会		13:00~14:20		
	(司会)	全国特別支援学級設置学校長協会(庶務部長)	中村	康成
ア	開会のことば	全国特別支援学級設置学校長協会副会長	近藤	正幸
イ	会長あいさつ	全国特別支援学級設置学校長協会会長	河本	眞一
ウ	開催地代表挨拶	和歌山県理事	鈴木	猛示
エ	議長選出	全国副会長	佐用	勇人
			山本	健五
オ 報告				
	(ア) 全国副会長会報告	全国副会長	高田	章夫
			吉見	隆史
(イ) 平成25年度会長候補推薦				
(ウ) 各部事業報告				
	①庶務部	庶務部長	中村	康成
	②会計部	会計部長	須田	淳一
	③調査部	調査部長	川崎	勝久
	④研究部	研究部長	阿部	謙策
	⑤広報部	広報副部長	吉本	裕子
	(エ) 第50回全国大会(青森大会)	青森県理事	坂本	要造
	(オ) 第51回全国大会(神奈川大会)	神奈川県理事	仲程	剛
	(カ) 第30回関東甲信越研究協議会	東京都理事	山中	ともえ
	(キ) 平成25年度第3回全国理事研究協議会	滋賀県理事	吉寄	治彦
カ その他「平成25年度定期総会並び全特協50周年記念式典について」		事務局長	瀧島	順一
			仲程	剛
キ	閉会のことば	全国副会長		
(3) 理事研究協議会		14:30~17:00		
	(司会)	和歌山県特別支援学級設置学校長会理事	葛原	昌文
ア	開会の言葉	和歌山県特別支援学級設置学校長会理事	明楽	和夫
イ	開会の挨拶	全国特別支援学級設置学校長協会会長	河本	眞一
ウ	歓迎の言葉	和歌山県特別支援学級設置校長会会長	鈴木	猛示
エ	来賓祝辞	和歌山県教育庁 学校教育局局長	岸田	正幸 様
		和歌山市教育委員会 教育長	原	一起 様
オ	来賓紹介	和歌山県特別支援学級設置校長会理事	高垣	誠
カ	事例発表 ①「和歌山県における特別支援教育推進の状況」	和歌山県教育庁学校教育局学校指導課特別支援教育室		
		特別支援班 班長	稲田	進彦 様
	②「子どもたちに光を！～通級指導教室の取組から～」	和歌山県海南市立日方小学校 校長	宮尾	英作 様
キ	指導助言	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課		
		特別支援教育調査官	樋口	一宗 様

ク	講演（行政説明）	「特別支援教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官	樋口 一宗 様
ケ	諸連絡	和歌山県特別支援学級設置校長会事務局長	山本 和也
コ	閉会のことば	和歌山県特別支援学級設置校長会理事	前田 嘉信
(4)	①ブロック会議	17:10～17:40	
	②顧問・参与の会	17:10～17:40	
(5)	懇親会	18:00～20:00	
	(司会)	和歌山県特別支援学級設置校長会理事	井谷 正人
ア	会長挨拶	全国特別支援学級設置校長協会会長	河本 眞一
イ	歓迎の言葉	和歌山県特別支援学級設置校長会会長	鈴木 猛示
ウ	来賓祝辞	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官	樋口 一宗 様
エ	乾杯	和歌山県連合小学校長会会長	北畑 嘉之 様
オ	次期開催県挨拶	滋賀県特別支援学級設置校長会会長	吉寄 治彦

<第2日2月1日（金）>

受付（ホテルアバローム紀の国にて）

8:00	8:15	9:15	9:30	10:30-10:40	11:45	12:45
受付	移動	本部説明	教育機関研修	教育施設視察	移動	散会
		たちばな支援学校		稲むらの火の館		

内 容（2日目）

- | | | | |
|-----|------|------------------------|-------|
| (1) | 移 動 | 観光バスにて | |
| (2) | 本部説明 | 全国特別支援学級設置校長協会会長 | 河本 眞一 |
| (3) | 現地研修 | 和歌山県立たちばな支援学校 | |
| | | 住所 和歌山県有田郡広川町和田2-1-3 | |
| | | 稲むらの火の館（濱口梧陵記念館） | |
| | | 住所 和歌山県有田郡広川町広6-7-1 | |
| (4) | 散 会 | （JR和歌山駅 または 南海和歌山市駅にて） | |

事例報告 「和歌山県における特別支援教育推進の状況」

和歌山県教育庁学校教育局学校指導課特別支援教育室

特別支援班 班長 稲 田 進 彦

事例報告 『子どもたちに光を！』 ～ 通級指導教室の取組から ～

和歌山県海南市立日方小学校 校長 宮 尾 英 作

1. はじめに

本校は、県庁所在地である和歌山市の南にある海南市にあり、海南市役所や市民病院、市民会館、児童図書館、保健福祉センターなどが集まっている市の中心地に位置している。以前は、にぎやかな商店街や大型スーパーが建ち並んで大変にぎわっていたが、近年、大型スーパーが閉店し、商店街の状況が変化している。

校区は、日方川沿いに東から西へ広がり、新興住宅が建ち並ぶ一角もあるが、核家族化が進んでおり、祖父母等との同居家庭は少なくなっている。また、高齢化が進み、高齢者だけの家庭も増えている。

学校の歴史は古く、明治6（西暦1873）年2月1日に日方簡易小学校として開校し、本年度の2月に創立140周年を迎える。昭和22（1947）年度に日方小学校と名称を変更し、昭和27（1952）年度に特殊学級＜若草学級＞が開設されている。そして、平成20（2008）年度に発達障害児童対象のLD等通級指導教室がモデル事業として設置され、本年度で5年目になるが、本校の児童だけでなく他の学校からの通級児童が増えている。

一方、本校の児童数は年々減少しており、昭和60（1985）年度は687名で21学級あったが、本年度は208名（12月1日現在）で全学年が単級になっている。



2. 本校の特別支援教育

本校の特別支援教育の目標は、「対象児童一人ひとりの特性を十分把握し、その実態に即した指導をし、豊かに生きるための生活力を養う。」と設定し、全職員が共通理解をはかり、一丸となって以下の取組を進めている。

【指導の重点】

（1）ひまわり（知的障害）学級

- ① 基本的生活習慣を身につけさせる。
- ② 社会生活に必要な基礎学力の向上をはかる。
- ③ 通常の学級と交流し、社会適応能力を高める。

（2）たんぽぽ（自閉症・情緒障害）学級

- ① 基本的な行動様式や生活習慣を身につけさせる。
- ② 感覚機能・運動機能の向上、コミュニケーション能力の育成をはかる。
- ③ 安心して学習できる環境を整え、情緒の安定をはかる。
- ④ 通常の学級と交流し、社会適応能力を高める。

（3）コスモス（肢体不自由）学級

- ① 基本的生活習慣を身につけさせる。



- ② 感覚機能・運動機能の向上、コミュニケーション能力の育成をはかる。
- ③ 安心して学習できる環境を整え、情緒の安定をはかる。
- ④ 通常の学級と交流し、社会適応能力を高める。

(4) 日方通級指導教室

- ① 通常の学級に在籍するLD等の子どもを支援する。
- ② 個に応じた指導を行い、障害の改善・克服をはかる。
- ③ 特に必要があるときは、各教科の補充指導を行う。

(5) 通常の学級に在籍する支援を必要とする子どもたち

- ① 基本的な生活習慣や日常生活に必要な能力を身につけさせる。
- ② 個に応じた支援により、基礎学力の向上をはかり、自ら学ぼうとする意欲を育てる。
- ③ 安心して学習できる環境を整え、情緒の安定をはかる。

【研究組織】

特別支援教育を推進するためには、組織づくりとその活性化が大切だと考えている。

本校では、研究組織として4部会（①特別支援教育部会、②指導方法部会、③特別活動部会、④生徒指導・人権教育・教育相談部会）を設置し、全教員がどれかの部会に所属し、研究を進めている。

特別支援教育部会では、月1回程度定期的に会をもち、子どもの実態に即した指導法の研究を深め、指導に必要な教材研究や教具の工夫をしている。また、通常の学級に在籍する支援を必要とする子どもたちの実態を把握し、指導方法を具体化するとともに、必要に応じて関係機関と連携するようにしている。

【推進体制】

特別支援教育を推進するためには、核になる教員が必要であると考えている。

本校では、特別支援教育コーディネーター2名を推進の中心に据え、校内体制を整備している。

コーディネーターを中心に、特別支援学級や通級指導教室に在籍している子どもたち・通常の学級に在籍する支援を必要とする子どもたちについて、会議をしたり接する機会を設けたりして、職員全体が理解を深められるように工夫している。

また、教職員の共通理解や資質の向上をはかるため、特別支援教育を本校教育の大切なポイントとして位置づけ、研修を行っている。

3. 日方通級指導教室

表1 海南市の児童の実態（平成18年10月調査）

(1) 日方通級指導教室の開設

海南市は、平成18年10月に市内の小学校16校の実態調査を行った。その結果、表1のように通常学級に在籍する児童で支援が必要であると思われる子どもは、小学校の男子で約6.6%、女子で約1.3%、全体では約4.1%であることがわかった。

その後、平成20年度、日方小学校に

	通常学級在籍数			支援を要する児童数			その割合		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
1年	276	238	514	18	4	22	6.5%	1.7%	4.3%
2年	252	233	485	16	4	20	6.3%	1.7%	4.1%
3年	242	257	499	15	6	21	6.2%	2.3%	4.2%
4年	275	239	514	23	2	25	8.4%	0.8%	4.9%
5年	237	224	461	12	0	12	5.1%	0%	2.6%
6年	287	240	527	20	3	23	7.0%	1.3%	4.4%
合計	1569	1431	3000	104	19	123	6.6%	1.3%	4.1%

特別支援教室モデル事業として、「LD

平成18・19年度研究集録（海南市教育研究所）より

等の通級指導教室」が設置された。開設当初は、旧下津町も含む小学校が対象であったが、平成22

年度に下津小学校にも「通級指導教室」が開設され、それぞれの地域ごとに児童を担当している。

(2) 日方通級指導教室の児童数

平成20年度に通級指導教室を開設して以来、児童数は表2のように年々増加している。

(平成24年度は12月現在)

通級指導教室を開設した当時、担当者は試行錯誤しながら取組を始め、次第にその活動の様子が各学校に浸透し、通ってくる子どもが増えてきたのである

本年度は、開設して5年目になり、医療機関からの紹介や校内外の通常学級の担任からの相

談がますます増加している状況である。

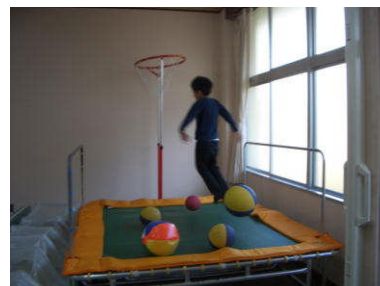
通級指導教室の担当者は、自校の通常学級の担任とさまざまな機会を通して十分に協議するとともに、授業の基盤となる学級づくりについても連携している。また、他校の通常学級の担任とは、巡回相談により連携を密にしている。

(3) 日方通級指導教室の取組 (活動の様子)

通級指導教室には、通常学級に在籍している支援を要する子どもが通ってきている。通級することで落ち着いて学習に取り組めたり、周囲の子どもとコミュニケーションが取れるようになったりというような成果が出てきている。

①「からだをうごかそう」

トランポリン・鉄棒・フラフープなどの器具や遊具を使い、学習の土台である身体機能の発達を促す。



②「集中しよう」

学習の課題に対して集中することで、理解できやすくなることを体験し、「わかる」「できる」意欲を育てる。



③「スキルを学ぼう」

ソーシャルスキルなどの指導を行い、自分の気持ちの表現方

法や相手の気持ちを推測するなど、特性に応じた技能を教える。また、子ども自身で課題を見つけられるようにし、その解決方法を一緒に考える。





④「ゲームをしよう」

ゲームや遊びを楽しみながら、社会生活を営む上で必要なルールや感情コントロールを実際に体得する。できた時はしっかりほめ、成功体験をさせることで、自信をもてるようにする。

また、生活経験を広げ、「楽しい」思いをすることで、気持ちの安定をはかっている。

⑤「交流会」

夏休みなどの長期休業中に、通級指導教室に通っている子どもや保護者が集まって、自己紹介したり、ゲームをしたりしながら交流を深める。

子どもたちだけではなく、保護者にとっても、交流を深める場となっている。



4. おわりに

本校の通級指導教室は、それぞれの子どもに応じて、担当者が担任や保護者と連携を密にしながら日々取り組んでいる。そして、通級指導教室の開設以来、担当者が研修を受けながら試行錯誤しながら苦労しながら取り組み、以下のような成果をあげてきた。

① 担当者の熱意と子どもや保護者を大切にする思いにより、保護者や子どもが障害を受容し、前向きに取り組もうとするようになってきた。

② 一人ひとりの子どもをよく理解し、その子に応じたきめ細かい指導により、子どもが安心して落ち着いた学習ができる。（笑顔で教室を出る子どもたち）

③ 週に1・2時間という限られた時間ではあるが、個に応じた支援ができるため、どの子も表情がよくなり、心の成長が期待できる。

④ 通常学級の担任や保護者と十分に連携を取ることで、より大きな効果が得られる。

⑤ 子どもへの指導を通して、さまざまな機関や地域とのつながりができてきている。

このように、一歩ずつではあるが通級指導教室の確かな歩みにより、子どもたち一人ひとりに光が当たるようになってきている。

これから、さらに大きな成果をあげるために、管理職が以下のことを心がける必要があると考えている。

① 今後、特別支援教育コーディネーターや通級指導教室の担当者をもっと広く育成するとともに、管理職が適宜かわり、スムーズにバトンが渡せるように長期的な展望をもって組織を構築していくことが大切である。

② 学校や子どもたちの様子をよく理解し、子どもや保護者、教職員と共有しながら特別支援教育を進めていく管理職の姿勢が大切である。

そして、『子どもたちに光を！』という思いをもって、今後も地道な取組を進めていきたいと感じている。

指導助言

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

特別支援教育調査官 樋口 一 宗

行政説明 「特別支援教育の現状と課題」

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

特別支援教育調査官 樋口 一宗

[illegible]

ブロック会議

顧問・参与の会

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

本部説明

全国特別支援学級設置学校長協会 会長 河 本 眞 一



和歌山城夜景



紀州てまり